

同講座は、同校の小田島 小田島教授は「どれも夫

(花城護)「など機器の設置、充実によ

(山本繁寿)

巷論

8月にロンドンで「なでしこ」観戦後、パリのルイ・ヴィトンで頼んでいたスーツを引き取り、スペイン経由でドミニカ共和国のサントドミンゴに移動した。ドミニカ共和国では今年5月大統領選挙があり、与党ドミニカ自由党候補タニロー・メデyna氏が当選した。そのタニローの新政権が8月16日から始まった。その日の大統領就任のパーティーに参加せよと、ベルヘス駐日大使から言われていたのでヨーロッパから急行した。

「事件」は、就任パーティー

当日の夕方起こった。

ホテルまで迎えにきた車に乗り込んだ瞬間、スボンからビリッという音がしたのだ。嫌な予感がして触ってみると、なんとお尻の縫い目が破れている。

7月、ロシアのソチ、北欧の

ドミニカでの出来事

ズボンの修理で日本らしさ

出張から戻るとき、パリ経由で帰国したのだが、その乗の継ぎのときに、シャンゼリゼにあるルイ・ヴィトン本店でスーツを作った。担当の人から言われたのは、「あなたが選んだ生地はカンミヤで薄い生地だから、動

いて破れないように、サイズに

余裕を持たせたから」と言われたのを思い出した。恐らく動いた時に生地が破れないように、縫い目を甘く縫製したのだ。

スーツはそれに着きりだった

ので、迎えに来た外交官が笑っ

に歩き、事なきを得た。

パーティーでは、「押しくらむ頭」状態の中、タニローと握手した。選挙運動中にタニローに何度も会っているので、私の顔は覚えていた。日本からは山根隆治外務副大臣が来ていた。

日本に帰国してから、六本木ヒルズのルイ・ヴィトンに修理を頼んだ。グローバル・ギャランティだから、パリで買ったのも東京で無料修理してくれる。修理の跡を見ると、お尻の縫い目は補修テープで補強してあった。日本らしさを感じた。

(石井 至)

いしい・いたる 石井兄弟
社長、東京都在住